

## 施工経験記述の書き方

### [設問 1] 工事内容の記述

対象工事の契約書、仕様書等の設計図書を手元に準備しておくことで正確な記述ができる。また当時の手帳、メモ、日誌等は、工事状況を思い出し、課題等を再確認することに役立つ。

#### ① 工事名

工事名は、建築工事や造園工事などではなく、土木工事に限定して工事の内容と場所がはっきりと分かるように書く。契約書の通りであると工事内容と場所が不明確な場合には、これらが分かるように記述する。

(例)・〇〇灌漑事業 001 号ダム本体築堤工事  
・〇〇川水路護岸改修工事  
・県道〇〇線道路舗装改良工事  
・〇〇橋橋脚工事

#### ② 発注者名

発注者名には、直接自分が所属する会社に発注したところを書く。自分の所属が二次下請会社の場合には一次下請会社が発注者となる。元請会社に所属している場合には直接の発注者(一般的には官庁)を、また発注機関に所属している場合には所属機関名を書く。発注者欄には、単に都道府県や市町村名だけでなく事務所名まで正確に記述する。

(例)・関東農政局 〇〇土地改良事務所  
・〇〇市河川課  
・〇〇県 〇〇土木事務所  
・(株)〇〇建設北関東支店

#### ③ 工事場所

工事場所は異体的な地番まで正確に書く。

(例)・東京都〇〇区〇〇丁目〇〇番地〇〇号  
・神奈川県横浜市都筑区 5-6  
・群馬県〇〇市〇〇地内

#### ④ 工期

工期は工事中のものとして、必ず完了した工期とし、所属会社が契約した工期について、年号から月日まで正確に書く。また施工量と整合のとれた工期がどうかよく吟味する。

(例)・平成 20 年 5 月 9 日～平成 21 年 7 月 28 日  
・2009 年 8 月 1 日～2010 年 4 月 25 日

#### ⑤ 主な工種

ここでは工種の主なものをあげる。工事や施工量と混同しないよう注意が必要である。

また[設問 2]でとりあげる技術的課題の工種は必ず記述する。

※工種の末尾に「～工」をつけて書くことと覚えておくとよい。

(例)・路盤工、アスファルト舗装工  
・土工、コンクリート工、ブロック積工、のり面保護工  
・管路掘削工、管路埋設工

以降は製品版に収録しております。